

平成31年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（京都市立中京もえぎ幼稚園）

教育目標

～主体的に環境に関わり、探究心や好奇心を育み、夢中になって遊ぶ幼児の育成を目指して～

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 子どもたちの好奇心や探究心を育む過程には、子どもたち一人一人のこうしたいと思う「ねがい」があることが分かった。教師が仲間として一緒に遊び、子どもが何に興味や関心を持っているのかを細やかに読み取り、子どものねがいを引き出し、ねがいをもち続けることを支えていくことが大事である。ねがいを子ども自身が意識して目的意識をもち続けることで、主体的に環境にかかわり、探究心や好奇心を育み夢中になって遊びこむ姿へと変容する姿が見られた。 次年度も引き続き、深めていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 保護者・教職員のアンケート結果や行事参観での子どもの姿などから、教員や園の思いが保護者に伝わり、今年度の幼稚園の教育目標、目指す子どもを概ね達成できていると思う。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月18日	学校運営協議会
最終評価	3月5日	学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・「好奇心や探究心を育む」ことについて教職員間で共通理解し、エピソード記録をとる。
- ・子どもが自ら周りの環境にかかわり、「好奇心や探究心を育む」環境の在り方や教師の援助について検証する。
- ・週案や記録をもとにしたカリキュラムマネジメント。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・子どもが、好奇心や探究心をもって遊ぶ姿のエピソードをとり、環境や援助は適切であったか、子どもの言葉や態度はそうであったか、子どもの育まれる力について検証していく。
- ・週案作成と年間指導計画の振り返り
- ・アンケート項目①「子どもは、幼稚園でいろいろなことに興味をもって遊んでいますか」
②「子どもは、幼稚園で遊ぶことが好きですか」

中間評価

各種指標結果

- ・「好奇心や探究心を育む」ということについて、昨年度までの取組や成果、課題を教員間で共通理解したうえで、子どもたちの好奇心や探究心を育むためにはどのような援助が必要か、また、どんなところから子どもの好奇心や探究心が生まれるのかなど、子どもたちの心の動きや興味や関心を丁寧にとらえ、保育環境の工夫に取り組んだ。また、子どもたちが主体的に遊ぶための教師の援助について教師自身も日々の保育について楽しみながら学び合うことができ、子どもたちの主体的に環境にかかりわり遊ぶ姿の変容となった。
 - ・年間計画振り返りの共有については、今後に課題が残る。
- アンケート項目①A 大変そう思う…70% B そう思う…29% C あまりそう思わない…1%
 ②A 大変そう思う…76% B そう思う…24%

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内の遊びの環境を教員同士で相談しあい園全体で保育環境について話し合いを進めてきた。教職員間の日々の丁寧な保育の振り返りや園内研修を通して、教員同士が常に高めあい、教師の援助や保育環境の工夫・改善へと実践につながった。子どもの姿については主体的に環境にかかりわり遊ぶ姿への変容が見られた。 ・アンケート結果からは、高い評価結果がみられ子どもたちが幼稚園に安心・安定して登園していることがうかがえる。引き続き取り組んでいきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画振り返りの共有については、課題が残った。後期に改善できるように計画をたて進めていく。 ・引き続き、子どもが主体的に環境に関わり、好奇心や探究心を育み、夢中になって遊べるよう、日々の保育を振り返り、教員同士で高め合えるよう取り組んでいきたい。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが、好奇心や探究心をもって遊ぶ姿のエピソードをとり、環境や援助は適切であったか、子どもの言葉や姿はどうであったか、子どもの育まれる力について検証していく。 ・週案作成と年間指導計画の振り返り ・アンケート項目①「子どもは、幼稚園でいろいろなことに興味をもって遊んでいますか」 ②「子どもは、幼稚園で遊ぶことが好きですか」
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもたちが安心して自分を表現できるように先生との信頼関係を大事に築きながら子どもの心に寄り添った保育を進めている。 ・保護者が子どもの教育にかかりわれるの今は今である。育ちに見通しをもち今大事にしなければいけないことがあることへの発信に園とともに取り組んで行きたい。

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育終了後、子どもの姿から教員同士での情報共有や振り返りにも意識的に取り組んできたことで、子どもの心の動きをより丁寧にとらえることができた。その中で好奇心や探究心がより広がり深まるよう教師の援助や環境構成に努めてきたことで、子どもが主体的に環境にかかりわり、好奇心や探究心をもって遊ぶ姿へと変容した。 ・週案作成と年間指導計画の振り返りについては前期よりも意識が向いているが課題が残る。 <p>アンケート項目①A 大変そう思う…74% B そう思う…25% C あまりそう思わない…1% ②A 大変そう思う…81% B そう思う…18% C あまりそう思わない…1%</p>

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>日々教員同士が保育を振り返りながら、学年の枠を超えて、園全体での子どもの育ちについて考え園内の遊びの環境の在り方や教師の援助について互いに意見を出し合い学び合ってきた。教員間同士の学び合いが刺激となり互いに高め合うことができたとともに園全体がひとつになって園の教育活動や保育充実に取り組むことができた。今後も引き続き園の教育活動、保育の充実に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後も引き続いて子どもが自ら周りの環境にかかわり、好奇心や探究心を育む環境の在り方や教師の援助について教職員間で刺激し、協力し合い互いに高め合っていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>ソニー幼児教育支援プログラムに論文を応募し、今年度は最優秀園を受賞した。このことは、先生たちががんばっている証であり、とても嬉しいことである。</p>

（2）幼小連携・接続に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間交流計画の作成 ・交流に向けての事前・事後の話し合い ・互いの授業参観・保育参観 ・保幼小連絡会議への参加 ・接続期のカリキュラムの検証 ・親子でえほんノートの活用 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を通しての事例検討 ・保幼小連絡会議への参加状況 ・アンケート③「小学校との交流や連携は、子どもの育ちにつながっていますか」 ・親子でえほんノートの活用状況 	
---	--

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流に向けての事前の話し合いはできたが事後の話し合いについては課題が残った。 ・保幼小連絡会議へ参加し、入学後の子ども姿から小学校教員と話し合い連携することができた。 ・親子で絵本ノートの活用については、毎週の親子で絵本貸出でも活用してもらっているが家庭により活用の仕方が異なる。 ・アンケート結果③ A 大変そう思う… 4 6 % B そう思う… 5 0 % C あまりそう思わない… 4 % 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流や保幼小連絡会を通して互いの教育について教員同士の接続にまで深く話し合うには今後の課題が残った。 ・アンケート結果からは、A・B 評価 9 6 %。小学校との交流や連携は、子どもの育ちにつながっていると感じておられることがわかった。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流はできたが、互いの教育についてまでは話し合うことができなかつた。今後の課題が残つた。2学期の後半からが特に幼小接続が大事になっていくと思うので、取組を進めていきたい。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を通しての事例検討 ・保幼小連絡会議への参加状況 ・アンケート③「小学校との交流や連携は、子どもの育ちにつながっていますか」 ・親子でえほんノートの活用状況
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小接続に取り組み、幼稚園教育の発信をし、小学校教育にもぜひ生かしつなげてほしい。 基本的生活習慣の確立の大切さを保護者へ発信し、園と家庭とが連携して取り組んでほしい。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期も交流に向けての事前の話し合いはできたが事後の話し合いについては課題が残った。 ・幼小連絡会議へ参加し、入学前の子ども姿から小学校教員と話し合い連携することができた。 ・保護者アンケート結果は、前期評価結果に比べ肯定的な結果が見られた。 ・親子で絵本ノートの活用については、改善が必要なところもある。
自己 評 価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小接続については、交流などで子どもの姿を通して話合い連携することはできた。互いの教育について教員同士で深く学び合うところは課題が残った。 ・アンケート結果からは、A・B評価98%。前期よりもA評価が16%上昇。前期よりも、子どもの育ちにつながっていると感じておられる保護者が多いことがわかつた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流事後の話し合いについては後期も課題が残ってしまった。 ・年度当初に幼小接続に向け、年間計画をたて計画的に取り組んでいけるよう改善していく。 ・絵本ノートの活用については、親子で活用されているが活用の仕方は、家庭により異なる。絵本のノートの活用について見直し改善する。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>前期と比較し後期の評価結果が上昇している。親も子どもも小学校へ行くことの不安の解消になつていてよいことだと思う。</p>

(3) 預かり保育に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程内の活動との関連を図り、担任と預かり保育担当教員との連携を密にとる。 ・預かり保育の指導計画を見直し、異年齢の交流や預かり保育ならではの活動が取り入れられるよう
--	--

に工夫する。
(取組結果を検証する) 各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の活動や指導計画の見直しの状況 ・子どもの姿や参加状況など

中間評価

自己評価	各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育への参加が増加傾向にある。 ・異年齢児の交流の場となり、預かり保育ならではの活動が取り入れられている。
	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数が増加傾向にある。また、異年齢児がふれあいかかわりを学んだり、預かり保育で新たな友達とのつながりができたりする姿がみられている。 ・預かり保育の指導計画の見直し状況については今後の課題である。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・連携面については、今後も互いに声を掛け合い、意識して取り組んでいきたい。 ・参加人数が増加傾向にある。異年齢児が同じ場で遊ぶ遊びや遊びの場の工夫に取り組んでいきたい。
学校関係者評価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の活動や指導計画の見直しの状況 ・子どもの姿や参加状況など

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・後期も預かり保育の時間が異年齢児の交流の場となり、異年齢児とのかかわりや預かり保育ならではの活動が取り入れられている。 ・日々の預かり保育の子どもの姿から活動の見直しを行い、指導の計画を見直している。
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児のかかわりや預かり保育ならではの活動を大事に取り組んできた。預かり保育での友達とのつながりにより、異年齢児とのかかわりが深まり異年齢児とのかかわり方を学んだり遊びの刺激となっている。 ・日々、指導計画を見直し、時期によって遊びの環境や玩具の出し方・種類などの工夫をさらに取り組んでいきたい。また、活動する場とゆっくり休める場の両方の場の工夫に取り組んでいきたい。 ・3歳児の参加人数が増加傾向にあり、遊びや休息の場の工夫が必要である。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・日々の預かり保育の活動や指導計画の見直しの反映 ・子ども姿や参加状況

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>預かり保育の場では、異年齢児の交流もあり家庭での雰囲気のように子どもたちが落ち着いてゆったりと過ごしている姿が見られる。</p> <p>利用されている保護者の方が感謝をされていることが伝わってくる。子育て支援の役割を果たしていると思う。</p>
-----------------------------	---

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援センターとして、未就園児教育相談実施の広報。 ・地域の子育て施設や子育て情報の発信。 ・保護者同士の交流。 ・小規模保育ルームとの連携。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域施設との連携状況 ・子育て支援の情報発信状況 ・未就園児教育相談の内容

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域施設との連携状況においては、小規模保育ルームとの施設提供や未就園児との交流(プールやミニ運動会など)ができた。 ・中京区役所保健福祉センター子どもはぐくみ室との連携により地域の未就園児施設の情報を発信。 ・未就園児の教育相談クラスでは、参加者が増加傾向にある。保護者同士のつながりや情報交換の場としての役割を果たしている。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児の教育相談クラスでは、未就園児同士の遊び場の提供やかかわりの場となっているとともに保護者同士もつながりの場や情報交換の場となっている。年度当初から比較すると参加人数が徐々に増加傾向にある。担当教員がいることで保護者との関係も築かれ安心して参加してもらっている。 ・中京区役所保健福祉センター子どもはぐくみ室との連携により地域の未就園児施設の情報を発信している。 ・小規模保育ルームとの施設提供や交流はあるが、子どもの発達について学びあう機会については今後の課題がある。
分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・園の未就園児教育相談の取り組みを知ってもらえるよう発信する ・引き続き保護者同士がつながれる関係づくりや場づくりとなるよう工夫する
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域施設との連携状況 ・子育て支援の情報発信状況 ・未就園児教育相談の内容

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園前から子どもたちにとって生活習慣の大切さを保護者の方にも伝え発信していくことを大事に取り組んでいってほしい。
-----------------------------	---

最終評価

自己 評 価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中京区役所保健福祉センター子どもはぐくみ室との連携により地域の未就園児施設の情報を発信することができた。 ・未就園児教育相談では、利用されている保護者同士のつながりや担当教員との関係から情報交換や交流の場となっている。 <p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児教育相談クラスでは、同じ年齢の子どもをもつ保護者や祖母同士のつながりや情報交換がうまれる場となり、未就園児同士の遊び場の提供やかかわりの場となっている。また、年間を通じて担当教員がいることで子どもや保護者が親しみをもちつながりを築くことができた。 ・12月には、5歳児の歌をきく交流の場をもった。今後は、園の教育内容を発信したり、園児との交流も計画していきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士のつながりや情報交換ができる場となるようにする。 ・園児との交流の場を計画していきたい。 ・情報発信に努める。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>地域に未就園児の遊び場があり、喜びの声を聞く。子どもの遊び場とともに保護者同士のつながりづくりの場があることは大事なこと。引き続き、地域の子育て支援のセンターとしての充実となるように取り組んでいってほしい。</p>

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会による幼稚園教育の参画の充実 ・地域の人材や資源を活かした指導計画作成 ・祭りなど地域行事への参加 ・地域清掃 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事参加状況や交流状況 ・地域の方々からの声 ・地域清掃活動の実施状況
--------	---

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の方による祇園祭のお話会やお茶会体験をしたり、夏のつどいで遊びのブース担
--------	--

	<p>当や絵本ボランティアで絵本の読み聞かせをしていただいたりなどの参画を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京うちわの製作体験。 ・地域の夏祭りに参加。 ・毎月はできなかったが年長児が地域の公園や園内のごみを拾い、ごみゼロ活動に取り組んだ。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会の方による祇園祭のお話会を聞いてから鉢見学へでかけたことで、みる視点をそれぞれがもち興味や関心をもって見学していた。また、5歳児のお茶会体験では年長児になったら体験できるという憧れとなり期待をもって参加していた。学校運営協議会の方との連携により、一人一人の子どもにとって貴重な体験となっている。 ・ゲストティーチャーによるうちわづくりでは、うちわの仕組みや出来上がる過程を知ったり、地域の夏祭りに参加し、地域の方と一緒にえぎ音頭を踊ったりして地域の方と交流することができた。 ・年長児のごみゼロ隊活動では、みんなで使用する公共の場である地域の公園（竹間公園）を大事にしようとする気持ちにつながったり、燃えるごみや燃えないゴミの分別や集めたごみの量などへの意識が向上したりしている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーなど地域人材活用 ・地域のごみゼロ活用
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事参加状況や交流状況 ・地域の方々からの声 ・地域清掃活動の実施状況
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事に幼稚園児が参加してくれとてもよかったです。地域の人たちとかかわることが少なくなっているが、このような機会を大切にしてほしい。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児が地域のゴミの清掃活動に参加した。2月には、年中児も参加して行った。地域の公園を大切に使おうとする気持ちにつながっている。 ・前期に引き続き、学校運営協議会の方によるお茶会体験や絵本の読み聞かせをしていただいたりなどの参画を実施。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の地域公園でのゴミ拾いは、地域の公園を大切に使おうとする気持ちにつながっている。2月には、年中児も年長児とともに行った。年中児も、燃えるゴミと燃やさないゴミの分別にも意識をもって取り組んでいる姿が見られた。 ・5歳児のお茶会体験では、希望の保護者を募り、子どものお茶会での様子を見学してもらう機会を設けたり、子どもが保護者にお茶をたててふるまう「親子お茶会」などに取り組み、保護者にも学校運営協議会や地域とのつながりを発信することができた。絵本の読みきかせでは、子どもたちも楽しみにしている声がきかれている。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーなど地域人材活用 ・今後も地域のごみゼロ活用に取り組む。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>これまでの取組を毎年見直し、改善が必要なものや継続していくものなどを考えていく必要がある。</p>

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと向き合う時間の確保。 ・教職員が勤務時間を意識した働き方を見直し改善にむけて実践する。 ・教職員のワークライフバランスの見直し改善にむけて実践する。
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な会議運営・園運営 ・園行事、会議の精選 ・ノー残業デーの実施徹底 ・教職員の意識改革 ・保護者への協力依頼の手紙配布
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の年休取得率 ・教職員の勤務時間

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年休取得については、取得しやすい環境改善に努めた。 ・教職員の勤務時間状況については、意識改革に取り組んでいる段階である。
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中には、教職員全体ですることとグループや担当ですることに分け、個人の状況に合わせて年休取得がしやすいう取り組んだ。 ・夏期休業中の当番のとり方については改善していきたい。 ・ノー残業デーへの意識は向いているが、実際に完全実施にまではいたれていないのが現状である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノー残業デーの実施が徹底できるように職員朝礼などでも発信し取り組んでいきたい。 ・園内研修や会議の時間は、検討内容を明確にし、会議時間や終わりの時刻を設定して取り組むよう改善していきたい。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の年休取得率 ・教職員の勤務時間 ・ノー残業デーの実施状況

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休みを取りやすい職場環境や勤務時間の改善に向けて取り組みを進めてほしい。
-----------------------------	---

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意識改革については以前よりも進んできている。しかし、現状には課題が残っている。業務の精選をするとともに見通しをもち計画をたて取り組んでいるところである。
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年末年始休暇では、前期の課題であった当番のとり方については改善できた。 ・勤務時間やノー残業デーについての意識は向上しつつある。 ・会議については、見直し精選する。 ・働き方改革を意識し、全教職員からどんな取組や改善ができるかを見直す。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議については、検討内容を明確にするとともに事前に資料を配布したうえで行い、終了時刻を設定して取り組んでいく。 ・優先順位を考え取り組んでいく。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>教職員がより休みを取りやすい環境になってほしい。また、先生方の子どもたちや教育に対する熱意がそうさせているのだと思うが、働き方を考え改善してほしい。</p>